



# 就学児童の 「きこえ」と「ことば」の関わり

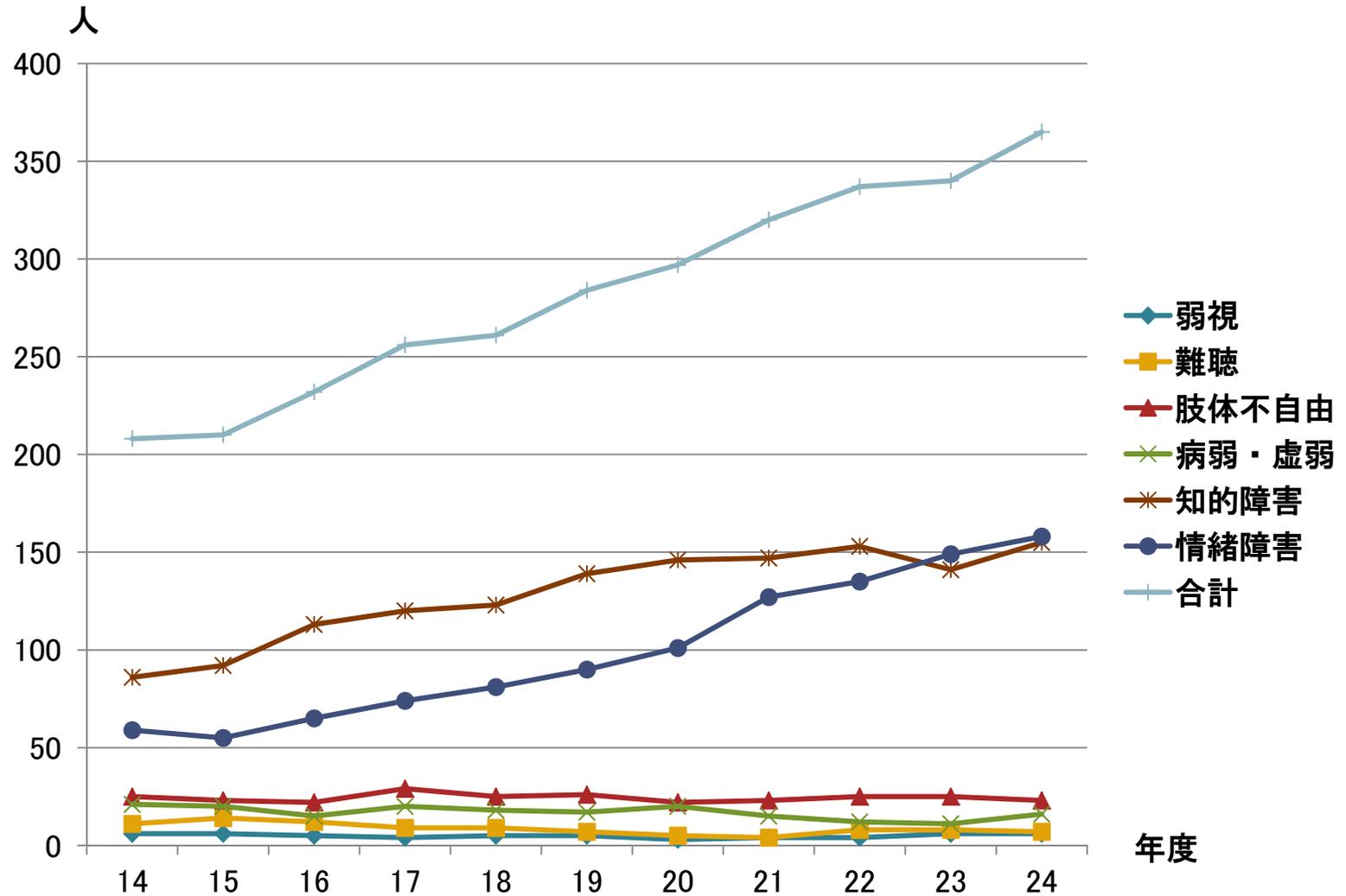
耳鼻咽喉科 川本医院  
奈良市就学指導委員会

川本 浩康

# はじめに

奈良市立小学校の特別支援学級在籍者は、少子化傾向に関わらず、平成14年度より年々増加している。その原因は知的障害・情緒障害の増加である。知的あるいは情緒障害児童は聴覚で認知し、言葉を表現する能力に遅れがあるといわれているため、「きこえ」と「ことば」の関わりについて調べてみた。

# 特別支援学級在籍者推移



# 対象

	奈良市立小学校 1年生就学児童	そのうち今回の調査対象となった 知的障害と情緒障害児童
22年度	2734名	37名
23年度	2655名	55名
24年度	2640名	57名
合計		149名

# 「きこえ」と「ことば」の関わり（1）

知的・情緒障害児童149名

きこえが良さそう  
にみえた児童

141名

きこえが悪そうに  
みえた児童

8名

聴力検査で  
判定

65名

問診のみで  
判定

76名

聴力検査で  
判定

7名

問診のみで  
判定

1名

33

84名 / 141名

(60%)

51

4

5名 / 8名

(62%)

1

「ことば」の発達に問題のあった児童の割合

# 小括（1）

84名/141名  
(60%)

5名/8名  
(62%)

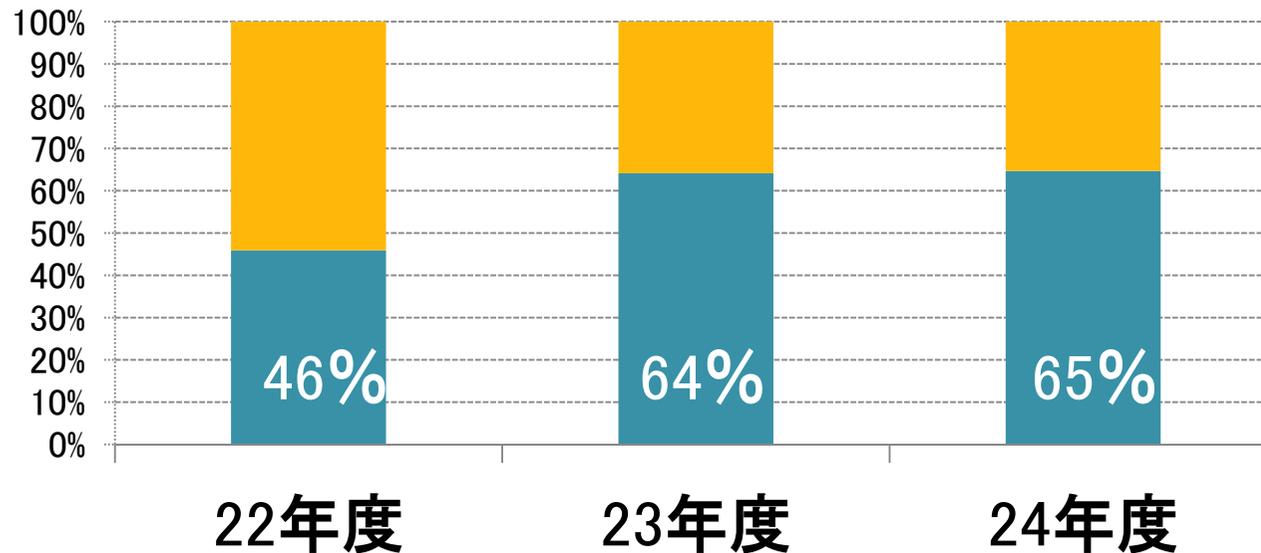
「ことば」の発達に問題のあった児童の割合

この結果は2通りに考察することができる。

- ①知的障害や情緒障害をもつ児童はさまざまな病理的要因によって「きこえ」に関わらず、「ことば」の発達に問題があるのであろう。
- ②就学前の幼児においてコミュニケーションがあいまいなのは当然であり、障害をもつ児童ならばなおさらである。「きこえが良さそう」にみえた群のなかに簡易検査や日常生活問診では見落とされた難聴児が多く含まれており、「ことば」の発達に影響を及ぼし、両群に差が出なかったのではないか。

## 「きこえ」と「ことば」の関わり（2）

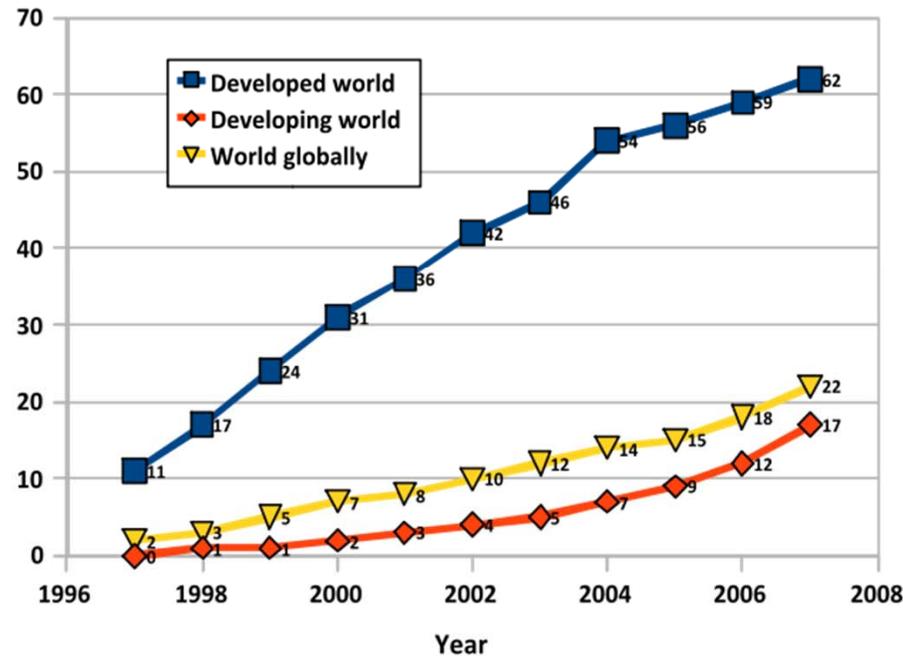
「きこえが良さそう」群に占める  
「ことば」の発達に問題がある児童の年次推移



しかし「きこえが良さそう」であるにもかかわらず「ことば」の発達に問題のある児童が近年増加していることがわかった。聴力スクリーニングが近年怠慢になっていたり、「ことば」の発達に影響を与える難聴以外の病理的異常が増加しているようなことも考えにくい。

# 小括（２）

Internet users per 100 inhabitants 1997-2007 (Source: ITU)



「ことば」の発達に影響を与える難聴以外の病理的異常が増加していないとすると、環境因子はどうだろうか。  
生まれた時から「ことば」を表現しなくてもいい環境、人間のつながりが希薄になった、母親とのスキンシップは？  
私見ではありますが考えてみたいものです。

# まとめ

奈良市立小学校の特別支援学級で年々増加傾向にある知的・情緒障害児童の「きこえ」と「ことば」の関わりについて考察した。

知的障害や情緒障害をもつ児童はさまざまな病理的要因によって「きこえ」に関わらず、「ことば」の発達に問題があると考えられる一方、見落とされた難聴のために、「ことば」の発達に影響を及ぼしている可能性もあるため、精密な聴力検査をしていく必要がある。

「きこえが良さそう」であるにもかかわらず「ことば」の発達に問題のある児童が近年増加している背景には環境因子もあるのかもしれない。医療支援、教育支援、母親支援など総合的な対策が重要であると考えます。